

中国の新たな対外関係法

—中国独特のルールに基づく国際秩序の変革

はじめに 中国の対外関係法

- 1 紛争の平和的解決
 - 2 近隣諸国との友好関係
 - 3 発展途上国との協力
 - 4 主要国との健全な交流
 - 5 軍備管理
 - 6 人権
 - 7 地球環境ガバナンス
 - 8 対外貿易と世界経済
 - 9 条約義務の遵守
 - 10 中国製フェンタニルの米国での氾濫
- 結論 法の支配の促進



ラウル (ビート)・ペドロソ
(米国海軍大学校教授)

はじめに 中国の対外関係法

2023年6月28日、中国の第14期全国人民代表大会で常務委員会は、新しく包括的な対外関係法を採択した¹。同法は2023年7月1日に施行された。法律の目的は、①中国国家の主権・安全保障・発展上の利益の保護、②中国国民の利益の維持及び発展、③現代化された社会主義強国の建設、④中華民族の偉大な復興の実現、⑤世界の平和と発展の促進、⑥人類運命共同体の構築と記されている²。この法律は、中国の各国との

1 The Law on Foreign Relations of the People's Republic of China art. 45, https://english.news.cn/20230628/28c7aedd386440ba9c370cb22476d430/c.html?utm_source=substack&utm_medium=email [hereinafter PRC Foreign Relations Law]. 中国の対外関係法は、第14期全国人民代表大会で常設委員会が採択した。

2 *Id.* art. 1.

外交関係及び経済、文化などの交流と協力、国連など国際機関との関係に適用される³。同法の施行は、「マルクス・レーニン主義、毛沢東思想、鄧小平理論、3つの代表論、科学的発展観、習近平による新時代の中国の特色ある社会主義思想」を指針とする⁴。社会主義の重要性は、第17条で繰り返し述べられ、中国の対外関係が「中国の特色ある社会主義体制を支持し、主権、統一、領土保全を守り、経済的及び社会的発展を促進する」ために行われることが強調されている⁵。

この広範で修正主義的な「法の支配」の宣言は、第2次世界大戦の終結以降、協力と発展を促進し、全ての国に利益をもたらしてきたルールに基づく国際秩序に取って代わろうとする中国の法律戦の単なる最近の一例であり、中国共産党が掲げる目標である⁶。中国のプロパガンダと虚偽にまみれた新法は、既存の国際制度を解体し、力を正義とし、勝者総取りという新しい世界秩序の実現を望む習近平のビジョンを示している⁷。新法を制定することで、中国は「新しい種類の国際関係を構築⁹」し、「グローバル・ガバナンス体制を…改革¹⁰」しようとしている。つまり、習主席と中国共産党は、ルールに基づく秩序を、自国の国内及び世界的利益を反映する主権に基づく新しい秩序へと変革し、中国共産党を「国内及び自国の影響力が及ぶと認識する範囲において咎めなく行動」させようとしている¹¹。

3 *Id.* art. 2.

4 *Id.* art. 3.

5 *Id.* art. 17.

6 Kerry Gershaneck, *To Win Without Fighting: Defining China's Political Warfare*, MARINE CORPS UNIVERSITY PRESS (June 17, 2020), <https://www.usmcu.edu/Outreach/Marine-Corps-University-Press/Expeditions-with-MCUP-digital-journal/To-Win-without-Fighting/>; Jordan Link, Nina Palmer & Laura Edwards, *Beijing's Strategy for Asserting Its "Party Rule by Law" Abroad*, U.S. INSTITUTE OF PEACE (Special Rep. No. 512, Sept. 29, 2022), <https://www.usip.org/publications/2022/09/beijings-strategy-asserting-its-party-rule-law-abroad>.

7 Qin Gang, H. E. State Councilor and Foreign Minister of China, Keynote Speech at Opening Ceremony of the Lanling Forum on Chinese Modernization and the World (Apr. 21, 2023), https://www.fmprc.gov.cn/eng/wjdt_665385/zyjh_665391/202304/t20230421_11062902.html.

8 Antony J. Blinken, U.S. Secretary of State, Remarks at Meeting with National Security Advisor Jake Sullivan, Director Yang, and State Councilor Wang (Mar. 18, 2021), <https://www.state.gov/secretary-antony-j-blinken-national-security-advisor-jake-sullivan-chinese-director-of-the-office-of-the-central-commission-for-foreign-affairs-yang-jiechi-and-chinese-state-councilor-wang-yi-at-th/>.

9 PRC Foreign Relations Law, *supra* note 1, art. 4.

10 *Id.* art. 18.

11 NATIONAL INTEL. COUNCIL, GLOBAL TRENDS 2040: A MORE CONTESTED WORLD 98 (Mar.

この論説では、中国の新法の条文の一部を検証し、中国の行動が法律の文言と正反対であることを示す。要するに、この法律は他国に対する「私の行い通りでなく、言葉通りにせよ」という警告であり、中国の偽善と、ルールに基づく国際秩序よりも自国を優位に見ているという自認である。

1 紛争の平和的解決

先ず対外関係法の第4条を分析する。同条項は、中国が「平和的手段によって国際紛争を解決することを約束し、国際関係における実力行使または実力による脅迫に反対する」と不誠実に主張している¹²。同様に第19条では、中国は「国連を中核とする国際的体制…及び」国連憲章の「目的と原則に基づく国際関係を支配する基本的規範」を支持することを約束すると述べている¹³。更に第20条では、中国は「国際平和と安全保障を守り」、国連安全保障理事会の「権限と地位を維持することを約束する」と規定している¹⁴。これらの条文に称された国連支持にもかかわらず、中国は、国連憲章第2条(4)¹⁵の明確な違反であり、安全保障理事会の常任理事国による国連システム全体への侮辱でもある、ロシアのウクライナ侵攻を非難していない一握りの国のひとつである。

2022年3月2日、国連総会は、ロシアによるウクライナ侵攻を、国連憲章第2条(4)の違反として非難し、特にロシアに対して「ウクライナに対する実力行使を直ちに停止し、いかなる加盟国に対しても不法な威嚇や実力行使をこれ以上行わないこと」を求める決議を圧倒的多数で可決した¹⁶。投票結果は、賛成141、反対5、棄権35(中国を含む)であった¹⁷。もしも中国が真に国際関係における実力行使に反対し、安全保障

2021), https://www.dni.gov/files/ODNI/documents/assessments/GlobalTrends_2040.pdf.

12 PRC Foreign Relations Law, *supra* note 1, art. 4.

13 *Id.* art. 19.

14 *Id.* art. 20.

15 国連憲章第2条(4)全ての加盟国は、その国際関係において、武力による威嚇または武力の行使を、いかなる国の領土保全または政治的独立に対するものも、また、国際連合の目的と両立しない他のいかなる方法によるものも慎まなければならない。

16 G.A. Res. A/RES/ES-11/1, Aggression Against Ukraine (Mar. 18, 2022).

17 Press Release, General Assembly, General Assembly Overwhelmingly Adopts Resolution Demanding Russian Federation Immediately End Illegal Use of Force in Ukraine, Withdraw All Troops, U.N. Press Release GA/12407 (Mar. 2, 2022), <https://press.un.org/en/2022/ga12407>.

理事会の権限と地位を守ることを約束するならば、決議に賛成し、ロシアの露骨な侵攻行為を非難すべきであった。

更に、2022年2月の侵攻以来、中国は、ロシアが欧州連合 (EU)¹⁸ と米国¹⁹ による制裁²⁰ を回避できるよう支援してきた。中国人民元はロシアで最も取引される通貨となり、ロシア政府による国際取引を可能にしている。中国とロシアは、両国の中央銀行がルーブルと人民元を交換できる通貨スワップ協定を締結したため、ロシアの商業銀行は人民元を現地経済に注入できる。最後に、ロシアは中国に保有する中央銀行の外貨準備を活用し、外国為替取引を行うことで、ルーブルの価値の管理を可能にしている。

ロシアはさらに EU 市場での収入減を補うため、中国への石油 (2022年に880億ドル) と天然ガス (2023年に約220億立方メートル) の輸出を増やしている。また中国も、ロシアへの電子機器 (2022年の集積回路輸出額は1,700億ドル)、基礎的なコンピュータ、輸送機器の輸出を強化している²¹。従って、中国の援助は、ロシアの戦闘能力の維持に直接役立っている。中国はロシア政府に対する継続的な支持を表明しており、最近では、ワグネル・グループの反乱が失敗した後の2023年6月下旬に発表された声明がある。この声明において、中国は、ロシアが「友好的な隣国であり、新時代に向けた協力の包括的な戦略パートナー」であることと、「ロシアの国家的安定の維持を支援する」ことを改めて表明した²²。

doc.htm.

18 Council Reg. 269/2014 of Mar. 17, 2014, Concerning Restrictive Measures in Respect of Actions Undermining or Threatening the Territorial Integrity, Sovereignty and Independence of Ukraine, 2014 O.J. (L 78/6); Council of the European Union, *Timeline—EU Restrictive Measures Against Russia Over Ukraine*, <https://www.consilium.europa.eu/en/policies/sanctions/restrictive-measures-against-russia-over-ukraine/history-restrictive-measures-against-russia-over-ukraine/> (last visited Sept. 15, 2023).

19 U.S. Dep't of the Treasury, Off. of Foreign Assets Control, *Ukraine/Russia-Related Sanctions Program* (updated June 16, 2016), <https://ofac.treasury.gov/media/8741/download?inline>.

20 Maia Nikoladze et al., *How is China Mitigating the Effects of Sanctions on Russia?*, ATLANTIC COUNCIL (June 14, 2023), <https://www.atlanticcouncil.org/blogs/econographics/how-is-china-mitigating-the-effects-of-sanctions-on-russia/>.

21 Nikoladze, *supra* note 18.

22 Foreign Ministry Spokesperson, Ministry of Foreign Affairs of the People's Republic of China, Remarks on the Wagner Group Incident (June 25, 2023), https://www.fmprc.gov.cn/eng/xwfw_665399/s2510_665401/202306/t20230625_11103407.html

2 近隣諸国との友好関係

第4条と同様、第18条も、中国が「友好、誠意、互惠、包摂の原則及び近隣諸国との友好とパートナーシップを強化する政策に従って、近隣諸国との関係を成長させる」努力をすることを無節操にも約束している²³。それにもかかわらず、中国は過去20年以上にわたって、地域を不安定化させ、南シナ海と東シナ海の現状を威圧と威嚇によって変更しようとする熱心な努力を続けてきた。南シナ海における中国の近隣諸国に対する逸脱行為の数は、1つの記事で紹介するには多すぎるが、漁船を沈没させ、調査船や海洋石油掘削装置にハラスメントを行い、漁具や漁獲物を不法に押収し、外国の石油会社に海洋油田事業を放棄するよう威圧するなど、中国が近隣諸国の排他的経済水域 (EEZ) や大陸棚において資源に及ぶ権利を直接妨害する一連の悪質な行為に関与してきたと述べるだけで十分である²⁴。

例えば、2023年4月21日、人民解放軍海軍のコルベット型「常州」は、南シナ海のパグアサ島沖約7海里で定期巡視を実施していたフィリピン沿岸警備隊のカッター船2隻 (BRP「マラバスクア」とBRP「マラブリゴ」) に対し攻撃的な挑発行為を行った²⁵。7日間の巡視中、フィリピン沿岸警備隊は、サビナ礁、イロコイ礁、ラワック島、フラット島、ウエストヨーク島、ノースイースト島、パガサ諸島、ティザード堆、ウィット

23 PRC Foreign Relations Law, *supra* note 1, art. 18.

24 South China Sea Arbitration (Phil. v. China), Case No. 2013-19, Award ¶¶ 818-993 (Perm. Ct. Arb. 2016) [hereinafter SCS Arbitration Award]; Raul (Pete) Pedrozo, *Does the Revised U.S. South China Sea Policy Go Far Enough?*, 99 INTERNATIONAL LAW STUDIES 72 (2022); Raul (Pete) Pedrozo, *Is a South China Sea Code of Conduct Viable?*, 97 INTERNATIONAL LAW STUDIES 937 (2021); Collin Koh, *David vs. Goliath: Southeast Asia Can Resist China's Gray Zone Aggression in the South China Sea . . . with Help*, U.S. NAVAL INSTITUTE PROCEEDINGS (May 2023), <https://www.usni.org/magazines/proceedings/2023/may/david-vs-goliath-southeast-asia-can-resist-chinas-gray-zone>; Bonny Lin et al., *A New Framework for Understanding and Countering China's Gray Zone Tactics*, RAND (2022), https://www.rand.org/pubs/research_briefs/RBA594-1.html; Samir Puri & Greg Austin, *What the Whitsun Reef Incident Tells Us About China's Future Operations at Sea*, INTERNATIONAL INSTITUTE FOR STRATEGIC STUDIES (Apr. 9, 2021), <https://www.iiss.org/online-analysis/online-analysis/2021/04/whitsun-reef-incident-china>; Michael Green et al., *Countering Coercion in Maritime Asia*, CENTER FOR STRATEGIC & INTERNATIONAL STUDIES (May 9, 2017), <https://www.csis.org/analysis/countering-coercion-maritime-asia>; Pete Pedrozo, *The U.S.-China Incidents at Sea Agreement: A Recipe for Disaster*, 6 JOURNAL OF NATIONAL SECURITY LAW & POLICY 207 (2012).

25 Dzirhan Mahadzir, *Philippine Coast Guard Cutters, Chinese Warship Almost Collide in South China Sea*, USNI NEWS (May 1, 2023), <https://news.usni.org/2023/05/01/philippine-coast-guard-cutters-chinese-warship-almost-collide-in-south-china-sea>.